

# ひまわりからの メッセージ

4 1 号

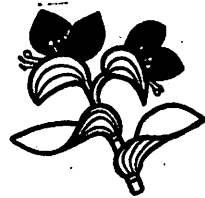
2014. 8. 12

西濃圏域  
発達障がい支援センター  
ひまわり

発行人：中野みか子

## 読書を通して

ことばの豊かさを……



NHKの朝の連続ドラマで、翻訳家の村岡花子さんの生涯を描いた「花子とアン」が好評のようです。

村岡花子は「赤毛のアン」などの翻訳者として有名ですが、歌人の柳原白蓮との交流を通じて短歌も詠んでいたという事は、一般には余り知られていません。

ところで、実は私は「赤毛のアン」を余り覚えていないのです。小中学生の頃、両親が買ってくれた「世界少年少女文学全集（全五の巻）」を、むさぼるように読んでいました。その中で今でも一番心に残っているのは、「少公子」という作品です。人嫌いで頑固者の伯爵に孫

のフアントルロイがはじめて対面する場面の描写がとりわけ好きでした。七歳の少年が、いかつい老人を前にして臆することなく対する場面は、私の背を伸ばさせ、自分もそうありたいと思ったものでした。

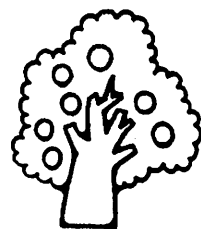
五十数年ぶりに「少公子」を手にしてみると、訳は、野上彰と川端康成の共訳になっていました。翻訳が川端康成であったことは全く知らなかったのですが、私の心の中にずっと入ってきたあの文章は、そうだったのかと今更ながら遠い日の感動を思いおこしたことでした。

今の子どもたちは、どんな本を讀むのでしょうか。お母さんたちは、幼い子どもたちに讀みませてもらって下さっているでしょうか。

ことばからイメージを広げていくことが苦手な子どもたちが増えているように感じることも多くなりました。動画が子どもたちの心にどのような影響を与えているのか想像もつきません。子どもたちが想像の世界を広げ、心豊かに育ってほしいと心から願っている私です。ことばのもつ豊かさを、大切にしたいですね。

# 家庭でできる

## からだの遊び



私たちの生活が便利になり、手を使わなくても水は出るし、電灯もつく、人が操作しなくても部屋のあそび具をしてくれる。食事にしても、お金さえあれば外食で十分という時代になりました。

子どもたちの遊びにしても、友だちと一緒に遊ぶなくても一人でゲームで十分遊べて、人とかかわらなくてもいいから気が楽です。話をしてくれるロボットもできましたし、人々はだんくんに人とかかわることから逃げ出しているように思えます。

そんな中で、子どもたちの体の問題は近年取り上げられることが多くなりました。私も、あちこちの園や学校にお邪魔すると、子どもたちの体がとても気になるのです。席に座ってられない子、バランスがうまくとれない子、ボディイメージができていない子など、本当に多

いのです。

特に、発達障がいの子どもたちに多く見られるのが① 感覚が鋭敏すぎたり、鈍かったりして、適切に処理できていない。

② 体を動かすための筋肉の緊張がうまく使えず、調節できない。

③ バランスがうまくとれない。よく動くのでバランスがとれているように見えても静止してバランスがとれない。

④ 自分の体を動かす前に、自分の手足をどう動かすのか、頭の中でイメージできず、ボディイメージがうまく育っていない。

⑤ 体を止めていられず、たえず動いてしまったり、コンスタントに動きつづけることが苦手だったりする。などといったことです。

最近では作業療法に通う子どもたちも多いうのですが、お母さんも勤めていて、なかなか病院にも通えない方のために、家でできることを少しご紹介しておきます。

へ全身の皮ふ感覚を養いましう

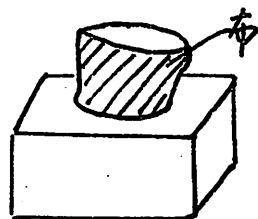
昔の子どもたちは(私のような年配の子ども時代)大抵こという雑草でお互の指先にはさんで引っぱり合いましたものですが、今の子どもたちの中には指先に力が入っていない子がたくさんいます。

指先の器用な子は、指先の感覚だけで細かい手作業をする事ができます。けれども不器用な子は、どういうわけにはいきません。

指先の感覚を育てるといふよりも、全身の皮ふ感覚を育てる方がまず先だといわれます。それにはやはり乾布まさつでほう、はじめはお母さんが使い古しのタオルでこすってあげます。うぶ毛にこすると落ちつくといわれます。触感覚は力を入れてかわると弱い刺激になり、そっとかわるのは強い刺激になります。自分の体の感覚を意識できない子には、バスタオルなどでくるんであげると、落ちつける子もいます。

指先や手はマッサージしたり、揺らしたり軽くたたいたり、押ししたりしてみまじう、少し手間がかかり

ますが箱に穴をあけておいて、中に物を入れ、手ま



ぐりで中の物を当てるといふようなゲームもお勧めです。指先でさわってみて何が入っているか、お母さんとあてっこして競争してみるのもいいかもしれせんね。

その他、手歩き(お母さんに足をもってもらって)や腕立て姿勢のままどうやが跳びをするなど、床にしっかりと掌全体をつけることもやってみまじう。

指先に力が入らない子にお勧めは鉄棒のぶら下がりや雲梯です。のほり棒なども良いと思いますが、最初はぶら下がりでしう。小さい子であれば、リズム遊びとして「おててをぶらぶらぶら、パツストーン」と、手を上下に揺らしたあとに、パツと手を開き、そのまま下に落とすといったことも楽しいでしう。

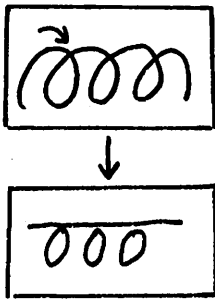
へ目と手の協応動作を育てよう

目で見て「やれる」と思ったのに、実際にやってみるとどううまくできないので嫌になっってしまうという例は

数多くあります。定位的調整力といって、物を一定の所に入れる力は一歳すぎから育っているのですが、目と手がうまく協調させられないとできません。的当てゲームやホールコウがし、ひもに吊したボールをバットで打つなど、遊びとして色々工夫できそうです。壁に文字や数字を書いた紙をはって置いて、「5・9・3」などと言われた数字や文字にタッチするあそびもできるでしょう。

机上であれば、新聞などで「あ」を探そうと、お母さんと競争してみるのもいいでしょう。

文字のなぞりが上手くないのであれば、ビー紙など大きな紙を使って全身を動かしてなぞりをしてみたり、徐々に小さくしていくのもいいでしょう。



上の図をなぞるのに、下の図のようになってしまふ子は、

まだ文字のなぞりは難しいと思います。それならまず、

交差線から始めてみましょう。

△ボディイメージを育てよう▽

お母さんは運転免許をとる時、車庫入れは上手でしたか？、車体の長さがわかって、どのような角度でバックしなければいけないか、頭でわかっていてもなかなか難しかったですね。車を自分の体とおきかえて考えみるとお分かりいただけるのではないのでしょうか。

先日、相談にいらっしたお子さんの中に、絵が描けないで困っているというケースがありました。最初は首もなかった人物画ですが、小学生になっても肩と手がつながっていないのです。肘のあたりから腕が出ているので、何とも不思議な人物像です。そのお子さんは、ラジオ体操をやっても同じように体を動かすことができないということでしたから、おそらく自分の手足がどのような位置関係にあるのかがわかっていないのでしよう。こういう場合、狭い所を通りぬけたり、ぶつかったりする経験も体のイメージづくりには役立ちます。学校や園にあるジャンクルームは、まさにボディイメージ

ジ作りに通してると言うべきでしょうか。残念ながら子どもたちはジャンクルジム遊びの面白さがわかっているようにです。通りぬけ遊びもやってほしいですね。子ども同士がぶつかって、トラブルになることがあります。わざとやっているわけではないのですが、距離がうまくはかれていないので、ぶつかってしまっているのですが、相手の子からみれば、わざとぶつかってきたように思えるので、同様に、うまく間を空けて遊ぶことができない子も、本当はどうしていいのかわかっている子だと理解してあげるべきでしょう。

こうして考えると、幼児期のかくれんぼ遊びなど、とても大切なだと気がかされます。お母さんたちは「そんな狭い所に入って……」とか「そんな所をくぐらないでもいいのに……」と言われるけれど、子どもたちは自分の中の発達課題をしつかりつかんでいるんだと言えるのかもれません。

くぐったり、体さのぼしたり、自分の手足がどの位にあるのか、経験の中で子どもたちは学んでいくのです。意外に子どもたちの苦手な動きとして体をしつかり

伸ばすということがあります。「手をピンと伸ばしてピン」とか、「背中をピンとして」と言われても、それこそ言われていることが分かっていない、ピンとこないというのが子どもの困り感です。

壁に両手をついて両ひじを伸ばして押してみたり、高い所のものに手を伸ばして取ってみるなどもお母さんと一緒にやってみるといいかもしれませんね。他動的にお子さんの手をとってひじをぐんと伸ばして、「ワッピンなに伸びるね」と体験させてみるのも必要かもしれません。手を伸ばした先に、お子さんの好きな物があったり、それも一工夫かもしれません。

△椅子に座っていられるように……▽

椅子に座っていられないお子さんはきつと体のバランスがうまくとれないので、ブランコやハンモックなど揺れるあそびは、園や療育機関などでもよくやっていますが、最近、公園では揺れる遊具は極端に少なくなりました。そこで、バランスボールがお勧めです。もしかしてお母さんがタイエット用に購入されていれば、そのボールを使ってみて下さるといいと思います。

ある企業では、事務をとる人たちが椅子代りにバ  
ランスボールを使って座っているという光景を見か  
けたことがあります。一つの試みとして面白いと思  
います。

また、ドーナツ型の椅子用フツションや、手作りの  
型もお勧めです。お子さんのお尻がすっぽりと入る  
ような型をウレタンやダンボールを利用して作ってあ  
げるのもいいでしょう。

夏場だと百均均一のお店でプール用の浮き輪代  
りの棒状のものが売られていますので、それを半分に  
切って、すべり止めマットを敷いた椅子の前の方にく  
っつけてあげても、座位保持に役立つようです。こう  
した日常の何気ない物の中にも、子どもたちに役立  
つ物が結構あるのではないかと思えます。

私の友人の中には、百均のお店で坂り出しものを探  
す人が結構います。お母さんたちも、「こんなものが  
役に立つよ」という物があつたり、ぜひ教えて下さい。



ところで、新居決にあるトモニ療育センターでは、  
子どもたちに毎日のマラソンを課題とされています。  
全国から通ってくる子どもたちで、お母さんたちもそ  
れなりに覚悟をしておらうのである。子どもたちの体  
つきを見ると、本当に芯がしっかりできているなあど  
感じます。けれど、家庭各々の条件もちがい、特に  
小さいお子さんがいる家庭では、毎日のマラソンなど  
でも……と思われるのではないだろうか。

トモニ療育センターは、所長の河嶋先生は小児科  
のお医者さんで、長男が自閉症であったために  
様々な教材を考案され、実践されています。子  
どもが自立していくためには、厳しさも必要とお考え  
なのでしょう。見学させていたいて、私たちも緊張し  
て参加したことでした。

いづれにしても、子どもたちの体のこと、もっと考えて  
いきたいものですね。

次回親の会は

9/9(火)です。

